

感染症発生動向調査委員会報告 4月

《今月のトピックス》

- 麻しんの報告が続いています。
- 伝染性紅斑の報告が増加しています。

全数把握疾患 4月期に報告された全数把握疾患

腸管出血性大腸菌感染症	2件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	2件
マラリア	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	1件
アメーバ赤痢	3件	梅毒	3件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件	麻しん	2件

＜腸管出血性大腸菌感染症＞2件(いずれもO157 VT1VT2)の報告がありました。1件は広域に発生している同じ畜産会社の馬刺しの喫食が原因でした。もう1件は感染経路等調査中です。本症は例年夏季にむけて感染者数のピークを迎えるため、今後の注意が必要です。特に抵抗力の弱い乳幼児や高齢者で重症化することがあります。通常、菌は家畜の腸内に存在し、新鮮な肉を購入しても表面に菌が付着している可能性があり、生肉を切った包丁やまな板の洗浄・消毒や、焼肉の生肉を取る箸と食べる箸を区別する等の予防対策が重要です。また菌は熱に弱いので、肉は十分に加熱(中心部まで75℃で1分以上加熱)し、生肉や加熱が不十分な肉を食べないことが大切です。

＜マラリア＞1件の卵形マラリアの報告があり、渡航先(ガーナ)での感染が推定されています。マラリアは、熱帯熱、三日熱、卵形、四日熱の4種類に分かれます。マラリアに免疫のないヒトが初感染した場合、発熱はほぼ必発で、原虫侵入後の潜伏期は熱帯熱マラリアで12日前後、四日熱マラリアは30日前後、三日熱マラリアと卵形マラリアでは14日前後です。

＜アメーバ赤痢＞腸管アメーバ症2件と腸管外アメーバ症(肝膿瘍)1件の報告がありました。腸管アメーバ症の1件は国内での同性間性的接触による感染、他の2件は国内での感染が推定されていますが感染経路等不明でした。

＜劇症型溶血性レンサ球菌感染症＞70歳代男性の報告が1件あり、血清型はG群でした。創傷感染が推定されています。

＜後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)＞無症状病原体保有者2件(無症候性キャリア1件とその他(急性HIV感染症)1件)の報告がありました。無症候性キャリアは国内での同性間性的接触による感染、その他は国内での感染が推定されていますが、感染経路等不明でした。なお、HIV感染症の初期症状である発熱、頭痛、咽頭痛などを呈する急性HIV感染症は、感染症法による届出のうち、1)無症候性キャリア、2)AIDS、3)その他、のうち3)その他、に該当します。

＜侵襲性肺炎球菌感染症＞70歳代の報告が1件(血清型7型)ありました。ワクチン接種歴は2回有りました。血清型のサブタイプは現在国立感染症研究所で精査中です。

＜梅毒＞3件の報告があり、1件は早期顕症Ⅱ期(咽頭乳白斑)で、国内での異性間性的接触(経口)による感染が推定されており、残る2件は早期顕症Ⅰ期(初期硬結、鼠径部リンパ節腫脹)で、どちらも国内での異性間性的接触(1件は経口、もう1件は性交)による感染が推定されています。

＜麻しん＞2件の報告がありました。1件は幼児で予防接種歴無し。PCR陽性で、遺伝子型はB3です。もう1件は50歳代男性で予防接種歴不明で臨床診断例です。現在PCR検査等精査中です。全国的に麻しんの報告が増加しており、既に今年は昨年を報告数を超えています。現在フィリピンなどでは麻しんが流行しており、海外からの輸入例が、特に首都圏で増えています。海外渡航歴や海外の人との接触が考えられる患者の診察では留意が必要です。さらに、国内発生事例では、本人の気づかないところで海外からの輸入例と接触し、感染したことが疑われる事例が報告されているので注意が必要です。また、職場内での感染も報告されています(参考:[麻しん臨時情報](#))。麻しんの予防には2回の予防接種が必要です。定期予防接種(1回目:1歳以上2歳未満、2回目:5歳から7歳未満で小学校就学前1年間)で、麻しん・風しん混合ワクチン(MRワクチン)を確実に接種しましょう。麻しんの検査診断にあたっては国立感染症研究所の「[麻しん検査診断アルゴリズム](#)」をご参照ください。また、診断の確定には適切な時期のPCR検査が有用です。検査については最寄りの福祉保健センターにご連絡ください。

定点把握疾患

平成26年3月24日から平成26年4月20日まで
(平成26年第13週から平成26年第16週まで。ただし、性感染症については平成26年3月分)の横浜市感染症発生動向評価を、
標記委員会において行いましたのでお知らせします。

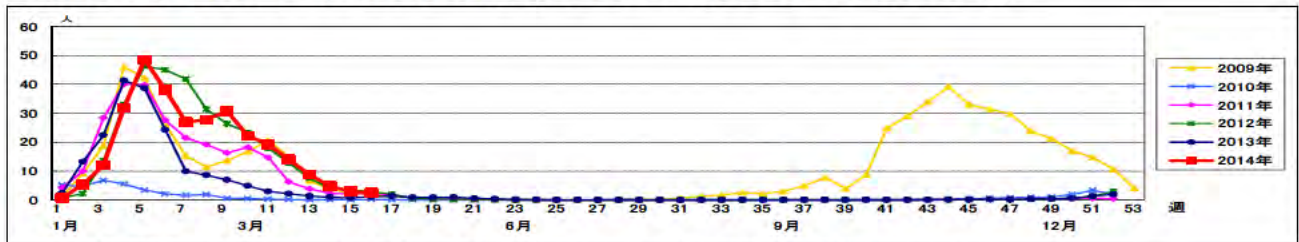
平成26年 週一月日対照表

第13週	3月24日～3月30日
第14週	3月31日～4月6日
第15週	4月7日～4月13日
第16週	4月14日～4月20日

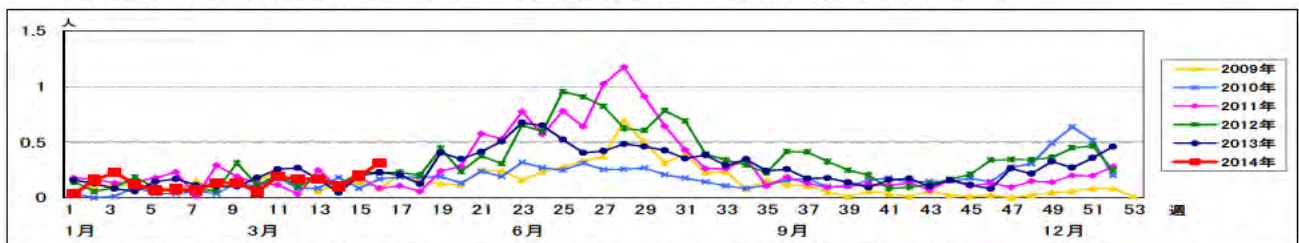
1 患者定点からの情報

市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:4か所の計202か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

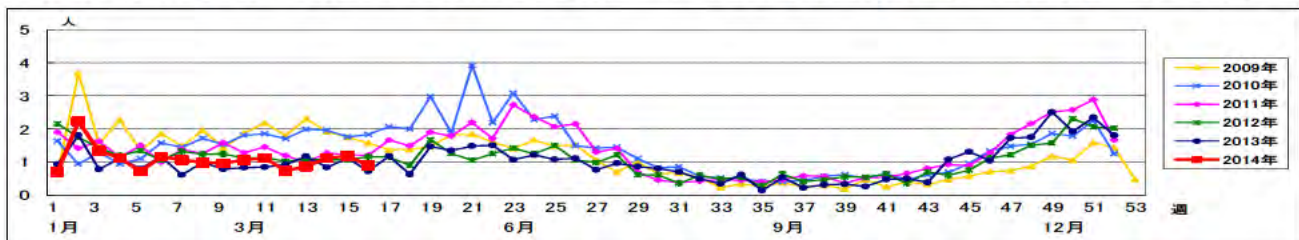
<インフルエンザ>市全体の定点あたりの患者報告数は引き続き減少傾向で、第16週は2.46です。ただ、第16週にも小学校での学級閉鎖が1件報告されており、もう少し注意が必要です。



<咽頭結膜熱>第16週は市全体で定点あたり0.31と、やや報告が増加しています。

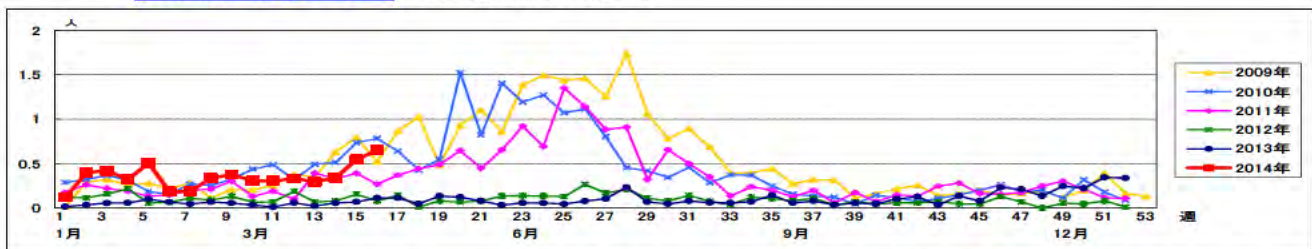


<水痘>第16週は中区で定点あたり5.33と注意報レベルですが、市全体では0.90と落ち着いています。



<伝染性紅斑>第16週は市全体で定点あたり0.65と、報告数が多くなっています。伝染性紅斑は典型的なヒトパルボウイルスB19(以下B19)感染症の臨床像です。B19感染症で注意すべきものの一つとして、妊婦感染による胎児の異常(胎児水腫)および流産があります。

◆[伝染性紅斑について](#)(国立感染症研究所)



<性感染症>3月は、性器クラミジア感染症は男性が23件、女性が7件でした。性器ヘルペス感染症は男性が6件、女性が6件です。尖圭コンジローマは男性9件、女性が3件でした。淋菌感染症は男性が10件、女性が1件でした。

<基幹定点週報>マイコプラズマ肺炎は第13週0.50、第14週0.33、第15週0.00、第16週0.00と落ち着いています。感染性胃腸炎(ロタウイルス)は第13週0.25、第14週0.00、第15週0.33、第16週1.50と報告が多くなっています。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

<基幹定点月報>3月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1件報告がありました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

<ウイルス検査>

4月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点34件(鼻咽頭ぬぐい液32件、ふん便2件)、内科定点3件(鼻咽頭ぬぐい液)、眼科定点1件(眼脂)、基幹定点19件(鼻咽頭ぬぐい液9件、髄液3件、ふん便2件、血漿2件、喀痰1件、血清1件、尿1件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は気管支炎16人、インフルエンザ9人、咽頭炎4人、感染性胃腸炎3人、発疹2人、内科定点はインフルエンザ3人、眼科定点は流行性角結膜炎1人、基幹定点は肺炎3人、インフルエンザ2人、無菌性髄膜炎2人、脳炎1人、先天性風疹症候群1人、不明熱1人でした。

5月9日現在、小児科定点のインフルエンザ患者8人からインフルエンザウイルスAH3型(1人)とB型山形系統(7人)、気管支炎患者2人からアデノウイルス、内科定点のインフルエンザ患者3人からインフルエンザウイルスB型山形系統、基幹定点のインフルエンザ患者1人からインフルエンザウイルスB型山形系統が分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点の気管支炎患者14人からヒトメタニューモウイルス(6人)、ライノウイルス(6人)、RSウイルス(1人)とヒトコロナウイルス(1人)、インフルエンザ患者1人からインフルエンザウイルスB型山形系統、咽頭炎患者1人からヒトボガウイルス、発疹患者1人からパルボウイルスB19、胃腸炎患者1人からアデノウイルス、基幹定点の肺炎患者3人からヒトボガウイルス(2人)とライノウイルス(1人)の遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【 検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

4月の感染性胃腸炎関係の受付は、基幹定点から4件、その他が7件で腸管出血性大腸菌2件(O157:H7,VT1&2)、NAGビブリオ1件が検出されました。

その他の感染症は小児科から4件、基幹定点から2件、その他が12件でした。A群溶血性レンサ球菌T1は劇症型レンサ球菌でした。

(次ページに表)

表 感染症発生動向調査における病原体検査(4月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	4月			2014年1月～4月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	0	4	7	0	42	17
菌種名						
赤痢菌						1
腸管出血性大腸菌			2			2
サルモネラ					24	
NAGビブリオ			1			1
不検出	0	4	4	0	18	13

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	4月			2014年1月～4月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	4	5	12	16	14	70
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌			1			2
T1						
T6				5		
T12	2			5		
T B3264	1			1		
型別不能				2		
B群溶血性レンサ球菌			1			6
G群溶血性レンサ球菌			2			3
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌		2			6	
<i>Legionella pneumophila</i>			1			3
インフルエンザ菌						2
肺炎球菌			3	1		47
百日咳					1	
その他		2			6	1
不検出	1	1	4	2	1	6

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】